

いま、私たちは 被災地と連携して 何ができるかを考える

シンポジスト

- **大下心平氏**・・・滞在型支援 杉並区職員、行政の立場から
- **飯田信夫氏**・・・受け入れ型支援 千川小学校校長、教育の立場から
- **多賀谷篤子氏**・・・派遣型支援 東京都公立学校スクールカウンセラー・コーディネーターチーム、学校臨床心理の立場から

開催日時・場所

2011年10月30日(日) 13:30~17:00

東京女子大学 24号館 24301号室(3階)

事前申し込み不要・参加費 500円(資料代として)

交通アクセス

JR中央線・総武線 または 井の頭線:吉祥寺駅から

→北口より西荻窪駅行きバス→「女子大前」下車

JR総武線:西荻窪駅から

→北口より吉祥寺駅行きバス→「女子大前」下車

2011年3月11日に東日本を襲った大地震・大津波・原発事故で、日本は未曾有のトリプル災害に見舞われ、半年を過ぎました。被災された方々、避難生活をされている方々、故郷や職場を離れなくてはならない方々、心からお見舞い申し上げます。

さて、当心理臨床センターでは、秋に恒例のシンポジウム「いま、〇〇〇を考える」を開催してきました。2009年度は「虐待と解離」、2010年度は「発達障害」、そして今年度は「いま、私たちは被災地と連携して何ができるかを考える」を企画いたしました。

大下氏は、杉並区から南相馬市に居を移し、現地で行政の立場から支援システムづくりを通して、滞在型支援をされています。飯田氏は、被災地から転校してきた子どもや家族たちに、教育の立場から受け入れ型支援をされています。多賀谷氏は、福島へスクールカウンセラーを派遣するお仕事を通して、学校臨床心理の立場から現地の学校や子どもたちへの派遣型支援をされています。

このように、東京女子大学および心理臨床センターとかかわりの深い杉並区や武蔵野市の方々にシンポジストになって頂いて、この間の貴重な体験やご意見を伺うことをきっかけに、私たち一人ひとり、また心理臨床センターとして、何が必要とされていて、そのニーズにどう応えていけばよいのか、長期的視野に立って考えていきたいと思えます。

どうぞ皆さま、日曜日の短い時間ではありますが、このシンポジウムにご参集いただき、自由な意見交換を通して、ご一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いたします。

<問い合わせ先>

東京女子大学心理学研究室 167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1 tel:03-5382-6412

東京女子大学心理臨床センター e-mail: ccp@lab.twcu.ac.jp HP: http://lab.twcu.ac.jp/ccp/